

石川県にてアサマキシタバを採集

野中 勝

これまで、石川県から記録されていなかったと思われるアサマキシタバを採集したので報告する。

金沢市医王山 1982年5月28日
アサマキシタバ 1♂1♀

白山山麓にてナマリキシタバを採集す

嵯峨井 淳郎・野中 勝

これまで石川県より記録されていなかったと思われるナマリキシタバ *Catocala columbina* を採集したので報告する。石川県産カトカラとしては本種は19種めにあたる。

1982-Ⅳ-13 1♀ 石川郡尾口村尾赤目附谷橋 嵯峨井採
1982-Ⅳ-14 2♂♂ " " 一里野~岩間温泉間 野中 嵯峨井採
1982-Ⅳ-22 1♂(死損) " 白峰村・釈迦道 嵯峨井採

かねて拙筆者らは、県内未記録種「ナマリキシタバ」・「フシキシタバ」は石川県にも産する"ものと確信し調査を進めていたが、おりしも杉繁郎(1982)氏によるアサマキシタバ・ナマリキシタバの食樹の報告を読み、文中にある石川県白山山麓の中宮温泉付近にナマリを産する云々...という記事が特に印象深く、大阪大学へ出向中の野中勝の一時帰郷を待って、ナマリ採集に挑戦して得られたものである。

ちなみに、嵯峨井が杉繁郎氏より得た私信によれば『石川県のナマリ情報は、1972年頃のもので又聞き又聞きのような資料で私に教えてくれた人も忘れていたような不確実なもので、あの様な書き方をしたのも、中間の情報提供者に迷惑をかけないといふ配慮をしたため、結果的には、何か「思わせぶり」のように見えるいは

御迷惑をかけたかもしれません。私に直接教えてくれたのは大和田氏で、同氏は当時大阪府大にいた田中教一君から聞いたというふう
に私のカードに書いてあります。場所は「白山付近」以上には判
りません。----- 後略とあり。いったい誰が、白山付近にて採
集したものが、果して正式発表の有無は全く不明のようである。
しかし、文面から考察すれば、当時大阪府大生によって得られた
ように察せられ、記録報告については、大阪府大内の内部同好会誌
等にあるいは、発表されているかもしれない。

* 杉 繁 郎 (1982) 月刊むし 138号

富山県におけるゴビオドシの採集記録 目撃記録について

吉村 久貴

筆者は、富山県内でゴビオドシを3例採集または目撃しているので報
告する。

- | | | | |
|--------------|---------------|-----|----|
| 1) 3-VI-1979 | 中新川郡上市町馬場島早川岸 | 1♀ | 採集 |
| 2) 20-V-1981 | " 立山町折名川第2発電所 | 1ex | 目撃 |
| 3) " | " " 折名川橋電橋 | 1ex | " |

いすれも春先、高地に降りて来たものと考えられる。雪渓の上を飛ん
でいた。富山県の昆虫(1979)をみると、馬場島の記載がないので
当然の可能性のある所であるが報告しておく。

なお、1)は筆者の弟、吉村貴己の採集によるものである。

参考文献 富山県の昆虫(1979) p. 326 27 ゴビオドシ

松本市三城でミヤマシロチョウを再確認

吉村 久貴

筆者は1980年にも松本市三城牧場でミヤマシロチョウを確認しているが
1981.7.19にも同行した吉岡氏と3♂1♀を確認した。ミヤマシロチョウ
は三城一帯に広く分布しているようで、遊歩道を歩いていると急にあら
われたり、道端のアザミの花で吸蜜していたりする。

筆者にとって、最近、この地で非常に懸念される問題がおきてい
る。それは霧ヶ峰からのびてきたビーナスラインが雁峠より更に延長

それ美原まで乗り入れになったことと、以前は屏温泉から屏峠までの道が非常に悪くて、ネックになっていたのが、三城より屏峠までモトギバ林道(有料)という舗装路が入ったために、松本—三城—屏峠—霧ヶ峰といった1つのコースができてしまい、今までほとんど見られなかった自家用車の乗り入れが激しくなってきたということです。

1980年には、三城より手前の道路でも点々とミヤマシロキョウは自撃されていたし、また路上では、ムラサキ、シートハ、テングキョウなどが無数に吸水していました。今後、激減するのではないかと思います。

筆者はいつも疑問に思うのですが、昆虫などが減少したりするのは、本当に採集者が採るからなのでしょうか。食草や卵をゴツゴツ持ち帰ったりすれば、採集による減少は当然おこると思います。昆虫の根本的な保護には採集者の取り締りよりも、山へ車や人を入れず、昆虫の住む環境を道路建設などで、これさないうようにすることも非常に重要ではないかと思います。

からぶり3題

松井 正人

1. 木滑のミヤマカラスシジミ

カンアオイを捜していて、ガケをよじ登る時につかんだ小さな木がクロウメモドキであった。卵とは偶然見つかるものだと思います。偶然卵を捜したところ、卵があった。ベタベタについていた。

ヤッターマンになったと思いつつ1枝(約60cm)を持ち帰ったところ、又になった所より合計16卵見付き、内2卵は孵化していた。

ニンマリして残り14卵を大事に大事にして孵化を待ったが、1ヶ月たってもかわゆい幼虫は顔を見せなかった。

エンピツの先で卵をさわったところ、簡単につぶれ皆カラだった。また孵化していただろう2卵も、全然姿を見せなかった。残念。

(※ 1982年4月18日 石川郡吉野谷村木滑にて)

2. 荒谷のサクラシジミ

この日は、ウスノコ、ミスノコ両材がシジミを採幼し、あとはカンアオイでもないものかと、オロオロ山を歩いていました。道端に小さなサクラがキョロキョロ顔を出すので、暇つぶしに卵を捜してみたところで見んなものはいない。カタクリが一面薔開できれい

あった。

尾根へ出た所に満開のサクラが1本あった。花が咲いていては卵は遅いと思いつつも例によって全く偶然に採卵行動をとってしまった。偶然とは怖いものでやっぱり卵は見つかった。

2卵、しかしさすがに時期遅くで孵化殻であった。そこで考えたのが“孵化殻作戦” 孵化殻付近の花を摘みとって帰ると、そのうち幼虫が顔を出すというあまい作戦である。そして、やっぱりあまい作戦であった。

(※ 1982年5月5日 石川郡尾口村荒谷にて)

3. キバネセセリはトリギリをやるだけかにする？

中の川アサマジミ調査隊約1名は、意気揚々と調査におもむく途中、目当りの良い道谷いに目立つトリギリがあったので、釈迦道で一件を思いつつ食痕を捜したところ、苦もなく(痛もなく)食痕が見つかった。しめしめと思いつつ刺さらないように枝をつかんでひん曲げたところ、枝はポキッと折れて手に血がにじむ。めげずに折れた枝から一枚ずつ葉をむしっていくと巣があった。しかし空巣である。葉をむしっていくと、これを巣の様な巣があったので、そっと開いてみると、そこには丸々と太った幼虫がいまません。結局、この枝では採れず、これは横の枝に糊ったか。横の枝を折れないようにそっと曲げるが、やっぱり折れて手には新しい傷が、揚げ句は、この枝には全く巣がない。そして横の枝へ。結局、苦もないはずが痛があり、そしてトリギリは無惨にもやるだけかになってしまった。

(※ 1982年7月3日 石川郡尾口村岩間噴泉塔付近にて)

シロウトのゼフ幼虫採集記

松井 正人

1982年は、ゼフシロカが月刊むしを読んで、シエシユと幼虫採集に出かけた年でした。

5月2日 金沢市平沢

原付バイクに乗って脇目をふりつつ、日陰のいじけたエナラを捜す。エナラが見つかるに食痕目当てに葉をひっくり返していると、葉の付け根に静止しているオオミドリ2令幼虫が見つかった。(5exs)

道路右は適当な空間があって比較的良く、歩かなくても良い所が最大のポイントである。

5月3日 石川郡白峰村大杉谷

コナラとミズナラを比べると、コナラはリンパンが少なく葉は平坦で白っぽいので、幼虫は探し易い。ミズナラは、並ぶおこぶる探しづらい。

そんなわけで、コナラばかり 材ミドリ調子で捜している時、同じように葉の付け根よりアカシジミ(2令 4exs)、ミスイロオナガシジミ(1令 1ex, 2令 1ex)が採れ、リンパンの裏側にひそむエゾミドリシジミ(1令 2exs)が採れた。

エゾミドリが採れた時は、何だかわからず、黒っぽくて、ゼフのまうな気がしなかった。ミズナラは見にくいなどと、ブツブツ言いながら見ているとエゾミドリ(2令 1ex)がどうにか採れた。

マルバマンサクにポツカリ穴があいているので、ウラクロカがいると思って、丹念に捜したが、全然見つからなかったが、ゼフシロのねばり勝ちで、腰丈位の葉裏より、葉脈に沿って静止している2令2exsを発見した。

5月4日 金沢市キコ山少年自然の家

がぜん自信のついたところで、なんとなくいない様な林内へ。コナラは少なく大木ばかり、暇つぶしだと思って気楽に捜していると、大木の目の高さ位の脇枝に 材ミドリシジミ(3令 1ex)を見つけた。

5月5日 石川郡尾口村荒谷

殊をしめつつ、ニンマリ笑って、またまた白山地方へ。マルバマンサクブナ、ミズナラの林で、ブナをやたら捜すが全然アウト。マンサクもダメ。ミズナラは芽吹き寸前でポツ。だんだんハイキングモードになってきたところで、日当りの良い空地にミズナラが杉の大木と並んで葉を開けているのを見つけた。高さ約5mで横に伸びている。

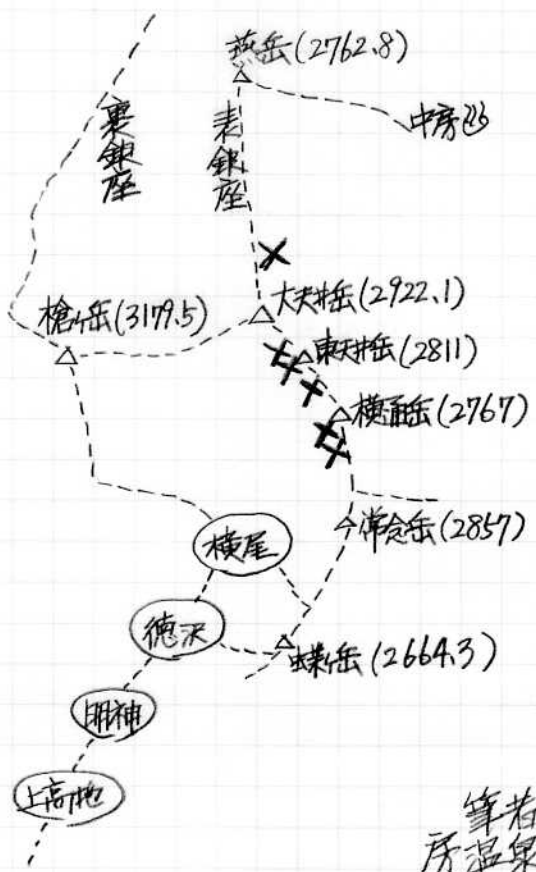
ちょいと登ると葉表にミスイロオナガがいる。なんとなく見つけ易い。よく捜すと、ミスイロオナガ(2令 4exs)、ミスイロオナガ(2令 1ex)が採れた。みな葉表からである。

値段の高いだけのはずだった月刊むしは、思わぬところで役に立ちました。もっと、しっかり読んで、更に多くの幼虫採集をまくろんでいるゼフシロでした。

参考文献 月刊むし 14号、15号、27号。

燕岳から蝶ヶ岳へ (タカネヒカゲ目撃)

吉村 久貴



筆者とその弟、吉岡氏の3人で1981年7月27日～29日にかけて、登山で、燕岳より蝶ヶ岳へ縦走した際に、各所でタカネヒカゲを目撃したので報告します。
 大天井岳より蝶ヶ岳に至る尾根は、最近、新表銀座と呼ばれ徐々に登山客も増えてきていますが、この尾根の各所にタカネヒカゲ、ヤマモンキチョウが生息していることは既によく知られています。
 しかし、燕岳から大天井を経て梶ヶ岳に至る表銀座に比べれば人はほとんどいないと言っているくらいで、タカネヒカゲは登山道のオアシスで陽なたぼっこをしていたりして、知らずに近づくと、急に飛びたつて、こちらが驚くといった感じでした。

筆者ら一行は、松本を7/27の朝たつて、中房温泉より燕岳へ至る急な登りを午前中に登り切り、燕山荘で昼食をとりました。

燕岳より大天井岳に至る表銀座登山道は、裏銀座の山なみを展望しながら歩けるのが特徴ですが、あんなくのがスでその絶景を目にすることはできませんでした。27日の夜は、大天井岳の小屋で泊まることにしていましたので、ゆくりと歩いて午後3時すぎに、大天井岳直前のマイナーピークに到着。ここでゆくりと飛んではとまるタカネヒカゲを数頭目撃。ヤマダイコンソウなどの咲くガレ場を少し飛んではとまり、少し飛んではとまりしていました。

大天井岳への登りはきつく、梶ヶ岳と常念岳の合岐点で、常念岳へと向いました。大天井岳付近には、梶ヶ岳方面の大天井ヒュッテと常念岳方面への大天荘がやや離れて建っていますが、大天荘の方が古い小屋ですが、ガラガラで何枚ものおとんにくるまって、のびのびと寝ることができました。

翌28日は、朝からよい天気で、きょうこそは、たくさんのタカネヒカゲ

に出会うだろうと東天井岳に向いました。

東天井岳のところで廢道がありますが、これは喜作新道のなかつた頃の槍ヶ岳への道で、現在は廢道となっています。この分岐点あたりのガレ場に、かなりのタカネヒカゲが「ちよこちよこ」飛んではとまりしていました。27日の午後のタカネヒカゲに比べると、かなり速く飛び回っていました。このガレ場にはスゲ類もはえていたので、食草になっているものと思われる。

更に先を急いで横通岳の横を通っている登山道あたりに達しましたが、こちらでは、タカネヒカゲはトイマツの上にとまったり、登山道から飛び出したり。常念小屋に着くまでかなりの数を目撃しました。また、時折、視界を横切っていくミヤマモンキチョウも見るこゝとができました。

常念小屋で昼食をとった後、標高差400mもある常念岳の登りにかかりましたが、こゝでは、既に空が曇ってきたせいもあってか、蝶の姿は全く見られませんでした。

天気が怪しくなってきたので、一路蝶ヶ岳を目指し、蝶ヶ岳ヒュッテに泊まりました。蝶ヶ岳ヒュッテは小屋の大きさに比べ、人数が多く、やや狭い感じを受ける小屋でした。

29日には、一路徳沢を目指して下山しました。

今回の山行では、タカネヒカゲはまだまだ広く、たくさんいるといった感じを受けました。

1982年度 採集手記 ②

小谷村ヒメギフ採集記

吉村 久貴

1982年4月25日(日)、朝5時に金沢を出発。一路長野県小谷村方面に向った。目的は、ヒメギフチョウだ。薬学部の写真家N氏とA嬢が同行した。大学院入試と国家試験で出省のなかったカムリ-2000GTは北陸自動車道を180~200km/hで走り滑川I.C.おどろき30分、南小谷まで2時間30分で到着した。

「八方尾根スキー場の第2リフト付近が、3月中旬は雪がおかつた」という情報からやや遅い予測があつたが、千国駅裏の黒川部落ではカタクリが満開であつた。杉林の横に広がる畑のおせのカタクリの前で待っていると、ヒメギフが時折、飛来する。初めの1頭は完品のまゝだったが、2頭めはややすぼめていた。やはり、やや時期の遅い感じだつた。しかし、雪の溶けたところから次々に羽化するらしく

ボロから完品までバラバラだった。

山の写真を撮りながら歩き回っていたN氏が、斜面の下草のウスバサイシンより、ヒメギフ卵1卵塊(8卵)を見つけた。快晴・微風の最高のコンディションだったが、個体数が思ったより少ないので、午後は外捜しとなった。産卵中の卵を目撃したので、その付近のきつい斜面を捜してみたところ、約20株のウスバサイシンに、2卵塊を見つけた。産卵中の母ヒメギフは採集せずに飛ばしておいた。

その後、2年前卵の確認できなかった大綱に向った。丹念に1時間程捜したが、卵の確認はならなかった。大綱で敷に入っていると土地の老人が来て、さかんに何を捜しているのか聞きたがって閉口した。

結局、小谷村黒川でヒメギフチョウ3♂1♀、52卵の成果だった。大綱で飼用のウスバサイシンを100本(200枚)ほどとってきたが、飼育には足らず、4令~終令時に、金沢大学薬草園のフタバアオイを与えたが、茎を少しかじっただけだった。2日間ほど、フタバアオイを与えておいたが、食欲がない様なので、大事をとって石川郡尾口村深瀬産のウスバサイシンを与えて、ようやく大きな蛹となった。現在、来春の羽化まで休眠中。

— 追記 —

筆者は、同じ長野県下のヒメギフでも、入笠山産のヒメギフに比べ小谷村産のヒメギフは、大きめで、ただならぬ模様の黄色の部分が多いように思います。人間で言うと“色白の美人”の様で気に入っているのですが……。

1982年度 採集手記より その3
鳳至郡門前町猿山灯台採集記
(能登のウスバシロチョウ採集)

— 吉村 久貴 —

1982年5月16日(日) 能登の鳳至郡門前町と輪島市との境あたりと、^(*1,2)門前町猿山灯台付近にウスバシロチョウが産すという情報をもとに、金沢を出発。メンバーは愛車レオネを運転する松井正人氏と、嵯峨井淳郎氏、若下泰子嬢と筆者の4名。

金沢より約2時間で門前町深見に到着。竹谷氏は前年に、深見より猿山に至る自然歩道でウスバシロチョウを確認したとのことであったが、海から離れた山手がいいたろうと、深見から山手に入り、六郎木を通り皆月に至る道を進んだ。

深見の奥の六郎木付近でニヶ所程ウスバシロチョウを捜したが、ス



シグロシロキョウ、ツマキキョウ、アオスジ
アゲハ、ツバメシジミ、ルリシジミなどの
普通種しか見られぬ道を更に進
むと、皆月より沙婆捨峠に至る道
へ出た。ここで、以前に野中氏 諸道
氏とともに行ったことのある猿山灯
台に向った。

沙婆捨峠に車を止めて、猿山灯台
まで歩くことにした。300m程歩くと、
白っぽい蝶が視界を横切った。
「ウスバシロキョウだ。」と思ったが、
一瞬のことでもう姿が見えない。
しばらくすると、また現れた。

一番最初に若下嬢がネットしか
やはり、ウスバシロキョウだった。「ヤッ
ぱり、能登にもウスバシロキョウはい
るんだなあ。」などと思っていると
視界に何頭かのウスバシロキョウが
飛んでいった。

灯台の手前の逢瀬橋の付近で、
10頭ぐらゐ採集。灯台を過ぎて
深見に至る自然歩道を100mぐらゐ
行くと、アザミの花で吸蜜したり、
あたりをフワフワ飛んだりしてい

るウスバシロキョウが無数に見られた。ここで30頭ぐらゐを採集した。
能登のウスバシロキョウは、大型で白っぽいという情報であったが、
ブラツキが大きく、標準的なものは金沢市近郊のものとあまり変わ
りない様感じた。^(x4)

沙婆捨峠で昼食をとった後、皆月経由で輪島方面に向ったところ、
皆月に近い薄野(村の)付近でウスバシロキョウを目撃したが、2頭のみで
あった。

その後、輪島市と門前町の境目にあたる西円山で、奥能登のオ
ヒカゲの新産地を見つけてから帰沢した。^(x5)

- | | | |
|----------------------------|-------|--------------------|
| *1) 能登のウスバシロキョウ | 天野 勝広 | とんりぼち No.46 (1981) |
| *2) 輪島のウスバシロキョウ | " | 翔 No.23 (1981) |
| *3) ウスバシロキョウ奥能登に産す | 竹谷宏二 | とんりぼち No.46 (1981) |
| *4) 能登半島内前におけるウスバシロキョウの採集例 | | 翔 No.32 (1982) |
| *5) 内前町西円山にてオヒカゲ幼虫を確認 | | 翔 " " |

《会員の動き・しゃぼの動き》

- ◆ 8月27日(金). 久々に石川県を台風(13号)が通過した。この影響で何か迷惑でも...と思いは、多少被害はありはあまい。
- ◆ 8月29日(日). 前日帰沢した野中氏と嵯峨井のcotoゴジビは、白山山麓へ、Catocalaの調査、ヤマキシタバ、ベリス、イマキシタバ、ヨシキシタバ、ヤチホコなど少々が得られた。
- ◆ 8月30日(月). 福井県昆虫同好会の神国香氏より西表島産蝶より得られた、リュウキュウシキ及びメスアカムシキの卵が各々200個前後、嵯峨井氏へ着せられた。

- ◆ 9月1日(水). 一、宮崎昆虫同好会の中尾景吉氏より、西表島産のリュウキュウシキ、メスアカムシキ及び西表島産のメスアカムシキ(いずれも三角紙標本)の標本が嵯峨井氏へ届いた。これらは金子、若下、吉村、松田の各氏へ分配し好評(?)を得たが、三角紙標本は枚数が少くストックされているので、軟化展翅に自信がある方は、SAGAに送連絡されたし。

《資料編集人より会員各氏への周知事項》

- ◆ 1982年もお終幕といたします。今年のデータを整理するとともに記録性の強化には是非投稿して下さい。

目 次

石川県にてアサマキシタバを採集	野中 勝	1
白山山麓にてナマリキシタバを採集す	嵯峨井 淳郎、野中勝	1
富山県におけるメオトシの採集記録・目撃記録について	吉村久貴	2
松本市三城でミヤマシロチョウを再確認	吉村久貴	2
からぶりの題	松井 正人	3
シロウトのゼフ幼虫採集記	松井 正人	4
燕岳から虫葉4種へ(タカネヒカゲ目撃)	吉村久貴	6
1982年度採集手記判 4の2 小谷村ヒメギフ採集記	吉村久貴	7
〃 〃 4の3 風至郡門前町猿山灯台採集記	吉村久貴	8
	(能登のウスバシロチョウ採集す)	

期 号 34

1982年12月25日(土)発行

発行： 金沢市三日新町4-9-33. 松井正人氏・百万石蝶談会

校正編集： 吉村久貴